

# ILC 科学的意義強調

## 文科省 意見まとめる 有識者会議

【東京支社】文部科学省の国際リニアコライダー(ILC)に関する第11回有識者会議(座長・平野真一、名古屋大総長)は4日、同省で開かれ、加速器延長を20キロに見直した後のILC計画に関する意見の取りまとめを行った。ILCで性質が未解明なヒッグス粒子を精密測定することによって、暗黒物質の正体など現在の標準理論では説明困難な課題の解明に端緒を与える可能性があるなどと科学的意義を強調。一方、巨額投資が必要なため、国際的な経費分担や国民、国内外の科学者の理解・協力の必要性を指摘した。今回の意見と日本学術会議の審議も踏まえ、政府として誘致に対する最終判断をするつもりとみられる。

委員13人が出席。意見のまとめ案について議論した。科学的意義に関しては、ヒッグス粒子の精密測定に

よって現在の素粒子物理学の方向性に示唆を与える可能性があるなどとした。

建設経費は当初見込まれた1兆912億円から、73億5千万円に短縮する(55億8000万円に減額される)の見積もりが同会議に示されている。

会議では依然として経費

**意見のまとめ概要**

**科学的意義**  
科学的に最も優位性があるのはヒッグス粒子の精密測定。今後の素粒子物理学の方向性に示唆を与える可能性がある

**国際協力**  
巨額の投資が必要で、国際的な経費分担が不可欠。欧米などの具体的な参画、経費分担について明確な見通しを得ることが重要

**国民科学コミュニティの理解**  
計画の全体像が国民、国内外の科学者に周知されることが重要

が巨額なため、国際協力や国民理解の必要性を指摘。現状では各国政府レベルの計画や予算で、明確な位置付けはほとんどとられていないことから、ホスト国に権限と負担が過度に集中しないようバランスへの留意や計画全体像の周知徹底も求めた。

同日の議論を基に意見の文言を確定させる。平野座長は「有識者会議の意見を

活用し、わが国の科学コミュニティの代表機関である日本学術会議で改めて審議してほしい」と求めた。

有識者会議は2014年

に文科省が設置。意見を一度取りまとめたが、計画延長の見直しを踏まえ改めて議論を行っていた。同省は今回の意見を受けて、今後、日本学術会議にILC計画に対する審議を依頼する方針。ILC計画に関わる研究者らは年内の政府の態度表明を求めており、日本学術会議の意見も踏まえ、誘致の是非について政府として最終判断するとみられる。